

2019 年度派遣事業（2020 年派遣）国際交流基金アジアセンター

“日本語パートナーズ” 派遣事業

大学推薦プログラム募集要項

1. 趣旨

2013 年 12 月に東京で開催された日・ASEAN 特別首脳会議において、日本政府は ASEAN を中心とするアジアとの文化交流を進めるための新しいアジア文化交流政策「文化の WA（和・環・輪）プロジェクト～知り合うアジア～」を表明しました。このプロジェクトを担うため、国際交流基金は 2014 年 4 月にアジアセンターを設け、芸術・文化の双方向交流と日本語学習支援を二本柱として事業を展開しています。

“日本語パートナーズ” 派遣事業は、日本語教育支援の中核事業として幅広い世代の人材をアジアの中等・高等教育機関等に派遣し、現地日本語教師と日本語学習者のパートナーとして、授業のアシスタントや会話の相手役といった活動をするとともに、教室内外での日本語・日本文化紹介活動等を行い、アジアの日本語教育を支援します。同時に、“日本語パートナーズ” 自身も現地の言語や文化についての学びを深め、アジアと日本の架け橋となることを目標とします。

2. 大学推薦プログラムについて

国際交流基金と協定を締結した大学等（以下、「協定校」という）が“日本語パートナーズ”として特に適性のある学生を推薦するプログラムです。学内選考を通過した学生は各協定校から「推薦状」を交付され、被推薦者として基金の選考に応募することができます。

3. 求める人材・適性

“日本語パートナーズ”は、留学や海外旅行とは異なり、現地日本語教師や学習者のパートナーとして活動します。派遣先の方々と協力しながら活動を行うことが求められるとともに、“日本語パートナーズ”として公的な活動を行うために派遣されていることを十分にわきまえ、自覚と責任をもって行動できることが非常に大切です。

また、言葉はもちろん、宗教や習慣等も異なる生活環境では、お互いの考え方の相違や困難に直面することもあります。現地の生活や行動様式、文化を学ぼうとする好奇心に加え、謙虚な姿勢かつ前向きに問題解決に取り組める人物が望ましいと考えています。

- (1) 留学や海外旅行と異なり、公的な活動を行う立場であることを十分にわかまえている
- (2) 派遣先国への関心および基本的な知識を有している
- (3) アジアの人たちとの交流・コミュニケーションに情熱をもっている
- (4) 現地の先生のサポート役として活動ができる
- (5) 厳しい環境の中でも生活できるバイタリティ・柔軟性・チャレンジ精神がある
- (6) 自助努力の精神、自覚と責任を持ち行動できる
- (7) アジアの社会、文化を学ぼうとする好奇心と謙虚さがある

4. 支援体制

国際交流基金本部、海外拠点のスタッフ、各地の日本大使館・領事館等が連携を取り、各地に派遣されている“日本語パートナーズ”が任地での活動を円滑に進められるように支援します。

5. 活動内容

現地との協議を通じて決定しますが、予定されている主な活動は以下の通りです。

- (1) 現地日本語教師が行う授業への協力
- (2) 授業の教材作成等への協力
- (3) 授業や課外活動における生徒との交流（日本語での会話、文化活動への協力等）
- (4) 派遣先の国際交流基金海外拠点等が実施する日本語教育事業への協力
- (5) その他、現地の要望に応じて、地域における日本語学習支援、日本文化紹介を通じた交流活動等

6. 派遣先・期および派遣期間（予定）

【タイ 8 期】 2020 年 5 月から 2020 年 12 月

【インドネシア 14 期】 2020 年 8 月から 2021 年 2 月

※派遣期間等は派遣先国政府との協議等により今後変更が生じる可能性があります。

7. 推薦人数

【タイ 8 期】 大学から最大 2 名

【インドネシア 14 期】 大学から最大 3 名

8. 応募要件

以下に掲げる要件をすべて満たしていることが必要です。

- (1) 本事業の趣旨および派遣制度を理解し、日本とアジアの架け橋となる志をもっていること
- (2) 現地の一般的な水準の生活環境（住居、暮らしぶりなど）に対応できること
- (3) 以下の時点で、満 20 歳から満 39 歳であること
（タイ 8 期：2019 年 9 月 30 日、インドネシア 14 期：2019 年 12 月 16 日）
- (4) 日本国籍を有し、日本語母語話者であること
- (5) 応募時に協定校の学部または大学院に在籍していること
- (6) 日常英会話ができること（英語で最低限の意思疎通が図れる程度）
- (7) 国際交流基金が指定する派遣前研修全日程（合宿形式）に参加できること
- (8) SNS、ウェブサイト等を活用して本事業の広報や活動についての情報発信に協力できること
- (9) 基本的なパソコン操作ができること（Eメールの送受信、簡単な文書や資料の作成など）
- (10) 過去に“日本語パートナーズ”として派遣された経験がないこと

【以下に該当する方は、応募時に各大学の担当窓口へ申し出てください。】

- ◆ 重国籍、または国籍留保の届出をしている方
- ◆ 2019 年 12 月以降も本邦以外の滞在資格、査証をお持ちの方
- ◆ 障害や LGBT 等の理由により、応募・選考・派遣前研修および本事業の活動や赴任地での生活に何らかの配慮が必要と思われる方
- ◆ 公用旅券の発給を受けている方、今後受ける予定のある方

9. 派遣までのスケジュール

日時	内容	場所
5/13(月) 12:50~13:45	募集説明会	R432
5/14(火)~ 5/27(月)17時	応募受付(応募用紙・在学証明書・成績証明書の提出)	国際部(4号館2階)
6/3(月)	一次選考(書類審査)結果通知 ※応募者の京都外大 Gmail 宛にメールで通知	
6/7(金) 昼休み	二次選考(面接) ※集合時間および場所は一次選考合格者に通知	未定
6/10(月)	二次選考結果通知 ※対象者の京都外大 Gmail 宛にメールで通知	
6/12(水) 12:50~13:45	第1回オリエンテーション 今後のスケジュール案内・必要書類についての説明	R432
6/13(木)~ 7/10(水)17時	必要書類の提出(推薦状・健康診断個人票・健康自己申告書)	国際部(4号館2階)
8月6日(火)~8日(木)の いずれかの日時	国際交流基金による選考(面接)	国際交流基金(東京都新宿区) または大阪市内(会場未定)
8月16日(金)までに 通知	選考結果通知(内定)	
	合意書の締結	
【タイ8期】(予定) 2020年3/22(日)~ 4/18(土) 【インドネシア14期】(予定) 2020年6/21(日)~ 7/18(土)	国際交流基金による派遣前研修	【タイ8期】(予定) 国際交流基金 日本語国際センター (埼玉県さいたま市) 【インドネシア14期】(予定) 国際交流基金 関西国際センター (大阪府泉南郡田尻町)
【タイ8期】 2020年5月頃~ 2020年12月頃 【インドネシア14期】 2020年8月頃~ 2021年2月頃	派遣	

(1) 学内選考

応募者全員に対して一次選考（書類審査）、一次選考合格者を対象に二次選考（面接）を行い、可否を判定します。

<提出書類について>

各書類はいずれも原本を提出してください。コピー不可です。

- ① 学内選考応募用紙
- ② 応募用紙（写真貼付）
- ③ 在学証明書 1通
- ④ 成績証明書 1通

※博士前期課程の大学院1年次生は大学の成績証明書、博士後期課程の大学院生は修士の成績証明書を提出

※二次選考合格者（被推薦者）は、期日までに次の書類を国際部に提出する必要があります。

詳細については、第1回オリエンテーションで案内します。

- ⑤ 推薦状 1通（指定様式）
- ⑥ 健康診断個人票および健康自己申告書

<応募の際の注意事項>

- ① 職歴や海外渡航歴等、応募用紙に書ききれないものについては、適宜別紙（A4用紙1枚程度）に記載してください。
- ② 提出書類一式は返却しませんので、必ず応募者本人の控えとしてコピーを手元に残しておいてください。
- ③ 提出書類作成、健康診断の受診費用等はすべて応募者の負担とします。

※これ以降は応募者と国際交流基金との間で連絡を取ります。

(2) 国際交流基金による選考（面接）

応募者全員に対して面接を行います。日時と場所については国際交流基金が指定し、7月26日（金）までにメールで連絡します。

ア. 日時 : 2019年8月6日（火）～8日（木）のいずれかの日時（1時間程度）

イ. 場所 : 国際交流基金（東京都新宿区）または大阪市内（会場未定）

※交通費は支給しません。

※日時・場所の指定・変更はできません。

(3) 選考結果通知

可否に関わらず、8月16日（金）までに面接受験者全員にメールおよび文書にて選考結果を通知します。

(4) 内定から赴任まで

ア. 内定通知・合意書締結等

- ① 選考終了後、内定候補者に対して内定通知を行います。その際、「意思確認書」を送付し、内定の受諾または辞退の意思を確認します。（一週間以内にご返送頂きます）
- ② 内定を受諾した場合は、「内定者」となり、様々な渡航手続きを開始します。渡航手続きでは、個人事項証明書（戸籍抄本）や各種書類、証明写真等の提出や派遣にかかる文書のやり取りを行います。
- ③ 渡航手続き期間中に国外にいる場合であっても、基金からの書類送付先は国内に限ります。
- ④ 内定者には、派遣前研修開始までに派遣地や派遣先機関に関する情報を提供します。いずれも国際交流基金及び基金海外拠点等が決定し、内定者が選ぶことはできません。
- ⑤ 派遣先機関によっては、以下の能力・経験等を考慮して配置する場合があります。
 - ・現地語ができる方
 - ・仕事による駐在経験、もしくは留学による滞在経験がある方
 - ・日本語教育の知識や経験がある方

イ. 派遣前研修

派遣前研修は、現地の生活、活動に必要な現地語の習得、及び任地事情、現地日本語教師への協力方法などの知識を身につけるためのものです。合宿形式で行い、すべての研修プログラムを修了しなければなりません。

【タイ 8 期】

日程：2020年3月22日（日）～4月18日（土）（予定）

場所：国際交流基金日本語国際センター（埼玉県さいたま市）

【インドネシア 14 期】

日程：2020年6月21日（日）～7月18日（土）（予定）

場所：国際交流基金関西国際センター（大阪府泉南郡田尻町）

※国際交流基金は、研修所までの往復旅費（日本国内の移動のみ）を支給し宿泊施設、食事を提供します（もしくは食費の一部補助額を支給）。当該経費以外の費用については自己負担となります。

ウ. 内定から赴任までの留意事項

以下に該当する場合には、内定取消しまたは派遣中止とする場合があります。

- ① 内定から本邦出発日までの間に、病気、怪我及び体調不良等により派遣先での業務が困難と国際交流基金が判断した場合
- ② 派遣前のやり取りや派遣前研修を通じて、派遣先での滞在や活動に対する適性が不十分であると基金が判断した場合
- ③ 応募用紙等、提出書類記載内容に虚偽があった場合

10. 派遣の待遇等

国際交流基金の規程に基づき滞在費、往復航空券（ディスカウントエコノミー）、旅費等の支給と住居の提供を行います。

(1) 滞在費

【タイ 8 期】 月額 120,000 円程度（所得税引後）

【インドネシア 14 期】 月額 120,000 円程度（所得税引後）

※派遣地の物価、生活水準、為替相場等の状況に応じて国際交流基金が定めた額です。

※国際交流基金の規程が改定された場合、滞在費の額が増減することがあります。

※滞在費は源泉徴収の対象になります。

(2) 住居提供

国際交流基金が住居を提供

※“日本語パートナーズ”が手配したり、選択したりすることはできません。

※住居賃料は国際交流基金が負担します。

※光熱費、通信費等は“日本語パートナーズ”が滞在費から支弁することになります。

(3) 往復航空券

日本と任地の往復航空券（ディスカウントエコノミークラス）を支給

(4) 赴任時の日本国内交通費

居住地の最寄りの駅から国際空港までの交通費（順路直行）を支給

(5) 赴任時の支度料等

支度料（赴任時のみ）、移転料等を支給

(6) 業務に必要な教具等

国際交流基金が業務上必要と認める教材、機材は基金が用意し現物支給、もしくは貸与

(7) 外国語研修手当

派遣期間中の外国語研修手当として月額 15,000 円相当の現地通貨に滞在月数をかけた額を上限として実費を支給

(8) 海外旅行保険

国際交流基金が以下の補償内容の海外旅行保険への加入を手配

傷害死亡保険金 最高 5,000 万円

傷害後遺障害保険金 最高 5,000 万円

治療・救援費用保険金 最高 5,000 万円

疾病死亡保険金 最高 3,000 万円

※既往症（出発前にかかったことのある病気・けが）、慢性疾患、むちうち、腰痛、歯科治療、妊娠、出産、早産または流産に起因した疾病にはこの保険は適用されません。派遣期間中に、保険適用外の疾病、傷害で治療が必要となった場合、医療費は被保険者の自己負担となります。

※国際交流基金は保険会社から実際に支払われる補償額を超える措置はできません。

(9) 赴任前の予防接種費用

赴任前に摂取したワクチンの接種費用を一部補助

11. 派遣先国・地域での安全確保および支援体制について

海外で生活するにあたっては、災害や治安悪化等の緊急事態に対する準備と「自分の身は自分で守る」という心構えが必要ですが、派遣中は国際交流基金本部、海外拠点のスタッフ、日本大使館・領事館等が連携を取り、各地に派遣されている“日本語パートナーズ”が任地での活動を安全かつ円滑に進められるように支援します。

なお、応募の際にはあらかじめ外務省海外安全ホームページにおいて現地の安全情報を入手・確認してください。

※外務省海外安全ホームページ：<https://www.anzen.mofa.go.jp/index.html>



12. 事業情報の公開

「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」（平成13年法律第140号）に基づく開示請求が基金に対してなされた場合には、同法に定める不開示情報を除き、提出された申請書類等は開示されます。

13. 個人情報に関して

- (1) 国際交流基金は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」（平成15年法律第59号）ほか、各国・地域等の個人情報保護にかかわる法律を遵守し、個人情報を取り扱う際には、適正な収集・利用・管理を行います。国際交流基金の個人情報保護への取組については、国際交流基金ウェブサイト「個人情報保護への取り組み」（<https://www.jpif.go.jp/j/privacy/>）をご覧ください。
- (2) 派遣事業実施のため、“日本語パートナーズ”の氏名、性別、生年月日、自宅住所、略歴、所属機関、派遣前研修期間等に関する情報を、派遣先機関、派遣先の日本大使館、関連各公館及び日本国外務省等関係機関に提供します。
- (3) 採否審査のため、提出書類を外部有識者等に提供することがあります。
- (4) 提出書類に記入のある連絡先に、他の国際交流基金事業についてご案内をお送りすることがあります。
- (5) “日本語パートナーズ”の氏名、性別、所属機関、派遣期間等に関する情報により統計資料を作成し国際交流基金年報、事業実績、ウェブサイト等に掲載するために利用します。
- (6) 本事業広報及び事業報告のために、“日本語パートナーズ”の写真、動画等をウェブサイトやSNS等の媒体に掲載することがあります。
- (7) 上記以外の理由で応募時の提出書類にある個人情報を使用することはありません。

14 その他

- (1) 基金と“日本語パートナーズ”は、派遣に先立ち合意書を締結し、それに基づき基金は“日本語パートナーズ”に業務を委嘱します。基金と“日本語パートナーズ”は雇用関係にありません。なお、合意書は2種類あり、内定受諾後に「派遣前研修に関する合意書」を締結し、派遣前研修修了者と「派遣に関する合意書」を締結します。

- (2) 派遣期間の短縮、延長および緊急時を除いて日本への一時帰国はできません。
- (3) 派遣前研修の日程、および派遣期間等については変更になる場合があります。
- (4) 各大学との協定内容や推薦実績等については基金のウェブサイト等で公表することがあります。
- (5) 基金は帰国後の就職斡旋や生活保障の責任は負いません。

15. 問い合わせ先

<学内選考に関する問い合わせ>

京都外国語大学 国際部

電話：075-322-6043

Eメール：oips@kufs.ac.jp

<その他の問い合わせ>

国際交流基金アジアセンター日本語事業第2チーム

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-13-6

電話：03-5369-6136

Eメール：nihongopartners@jpf.go.jp

国際交流基金アジアセンター
“日本語パートナーズ” 派遣事業 学内選考応募用紙

学部			学科	
年次		クラス	学籍番号	

フリガナ			性別
氏名			男・女
生年月日	西暦 年 月 日生 (2019年9月30日時点で 歳) (2019年12月16日時点で 歳)		
連絡先	携帯電話番号：		
	携帯Eメール：		

1. 志望する国の優先順位を記入し、志望しない（できない）国には「なし」と記入すること。

国名	優先順位
タイ	
インドネシア	

2. 趣味・特技（サークル・ボランティア・部活動なども含む）について自由に書いてください。

氏名

国際交流基金アジアセンター “日本語パートナーズ” 派遣事業 応募用紙

(2019 年 月 日現在)

写真

(無帽・正面)

*3 か月以内に撮影
*裏面に氏名を記入してください
*縦 4.5cm×横 3.5 cm

フリガナ		性別
氏名 <small>※戸籍上の氏名に限る</small>		男・女
生年月日	西暦 年 月 日生 (2019 年 9 月 30 日時点で 歳)	
現住所 <small>※国内住所に限る</small>	〒	
	電話：	携帯電話：
	Eメール：	

学歴	期 間 ※西暦	学校・学部・学科名 ※中学校卒業より記入
	年 月～ 年 月	
	年 月～ 年 月	
	年 月～ 年 月	
	年 月～ 年 月	

職歴	期 間 ※西暦	勤務先名 ※アルバイトも含む
	年 月～ 年 月	
	年 月～ 年 月	
	年 月～ 年 月	
	年 月～ 年 月	

賞 罰

趣味・特技 (サークル・ボランティア・部活動等も含む)	外国人との交流や協働の経験 (訪日外国人観光ガイド、国際交流サークル等)

氏名

外国語能力

下に記載の全ての外国語能力について、評価の欄に○をつけてください。その他、学習経験がある外国語があれば記入してください (いずれも自己評価)。また、資格等がある場合は記入してください。

未：未習 (学習経験なし) / A：入門 (挨拶、自己紹介ができる) / B：初級 (簡単な意思疎通ができる)
 C：中級 (日常生活ではば支障なく意思疎通ができる) / D：上級 (業務上も十分活用できる)

※英語の「未」「A」は本事業の応募要件を満たしません。

英語	評価： 未 ・ A ・B・C・D	語	評価：A・B・C・D
タイ語	評価：未・A・B・C・D	語	評価：A・B・C・D
語	評価：未・A・B・C・D	語	評価：A・B・C・D

TOEFL 点 (年 月) TOEIC 点 (年 月)
 英 検 級 (年 月) その他 ()

資格・免許等

<日本語教育に関するもの> ※あてはまる場合は、□にチェックマーク (✓) をつけてください。

日本語教師養成講座 (420 単位時間以上) 機関・団体名： 修了 在籍中
 日本語教育能力検定試験 合格 (年)
 大学・大学院における日本語教育 大学・大学院名： 主専攻 副専攻
 学部・学科名：
 講座受講等、その他 ()

<その他の資格・免許等>

外国人に対する日本語教育の経験 (国内・海外問わず/個人教授、教育実習、TA などを含む)

期間 (年数・月数)	国・機関名	対象層	時間/週	常勤・非常勤等の別
年 月～ 年 月 (年 か月)				<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> ボランティア <input type="checkbox"/> 教育実習 <input type="checkbox"/> その他 ()
年 月～ 年 月 (年 か月)				<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> ボランティア <input type="checkbox"/> 教育実習 <input type="checkbox"/> その他 ()
年 月～ 年 月 (年 か月)				<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> ボランティア <input type="checkbox"/> 教育実習 <input type="checkbox"/> その他 ()

海外渡航歴 ※滞在期間の長いものから優先的に記入

期間 (年数・月数・日数など)	渡航先	主な目的
例： 2015 年 5 月～ (6 日間)	インドネシア	観光
年 月～ ()		
年 月～ ()		
年 月～ ()		
年 月～ ()		
年 月～ ()		
年 月～ ()		

氏名

1. 本事業をどのように知り、どんな点に魅力を感じたかを含めて、「応募理由」を記述してください。

2. 本事業における“日本語パートナーズ”の「役割」を踏まえた上で、あなたがイメージする「派遣先での活動内容」を具体的に記述してください。

氏名

3. 派遣先での日本語の授業や課外活動において、あなたの特技やこれまでの経験がどのように活かせると考えますか。 具体的に記述してください。

4. 派遣中の生活環境は日本と大きく異なります。“日本語パートナーズ”として東南アジアで生活するにあたり、あなた自身はどんな点に難しさを感じると思いますか。

5. 今後の進路やキャリアを考える上で、“日本語パートナーズ”の参加経験をどのように活かしたいと考えていますか。

氏名

大学推薦プログラム（インドネシア 14 期）

国際交流基金アジアセンター “日本語パートナーズ” 派遣事業 応募用紙

(2019 年 月 日現在)

写真
(無帽・正面)
*3 か月以内に撮影 *裏面に氏名を記入して ください *縦 4.5cm×横 3.5 cm

フリガナ		性別
氏名 <small>※戸籍上の氏名に限る</small>		男・女
生年月日	西暦 年 月 日生 (2019 年 12 月 16 日時点で 歳)	
現住所 <small>※国内住所に限る</small>	〒	
	電話：	携帯電話：
	Eメール：	

学歴	期 間 ※西暦	学校・学部・学科名 ※中学校卒業より記入
	年 月～ 年 月	
	年 月～ 年 月	
	年 月～ 年 月	
	年 月～ 年 月	

職歴	期 間 ※西暦	勤務先名 ※アルバイトも含む
	年 月～ 年 月	
	年 月～ 年 月	
	年 月～ 年 月	
	年 月～ 年 月	

賞 罰

趣味・特技 (サークル・ボランティア・部活動等も含む)	外国人との交流や協働の経験 (訪日外国人観光ガイド、国際交流サークル等)

氏名

外国語能力			
<p>下に記載の<u>全ての</u>外国語能力について、評価の欄に○をつけてください。その他、学習経験がある外国語があれば記入してください (いずれも自己評価)。また、資格等がある場合は記入してください。</p> <p>未：未習 (学習経験なし) / A：入門 (挨拶、自己紹介ができる) / B：初級 (簡単な意思疎通ができる)</p> <p>C：中級 (日常生活ではば支障なく意思疎通ができる) / D：上級 (業務上も十分活用できる)</p> <p>※英語の「未」「A」は本事業の応募要件を満たしません。</p>			
英語	評価： 未 ・A・B・C・D	語	評価：A・B・C・D
インドネシア語	評価：未・A・B・C・D	語	評価：A・B・C・D
語	評価：未・A・B・C・D	語	評価：A・B・C・D
TOEFL	点 (年 月)	TOEIC	点 (年 月)
英 検	級 (年 月)	その他 ()	

資格・免許等
<p><日本語教育に関するもの> ※あてはまる場合は、□にチェックマーク (✓) をつけてください。</p> <p><input type="checkbox"/> 日本語教師養成講座 (420 単位時間以上) 機関・団体名： <input type="checkbox"/> 修了 <input type="checkbox"/> 在籍中</p> <p><input type="checkbox"/> 日本語教育能力検定試験 合格 (年)</p> <p><input type="checkbox"/> 大学・大学院における日本語教育 大学・大学院名： <input type="checkbox"/> 主専攻 <input type="checkbox"/> 副専攻</p> <p style="padding-left: 150px;">学部・学科名：)</p> <p><input type="checkbox"/> 講座受講等、その他 ()</p> <p><その他の資格・免許等></p>

外国人に対する日本語教育の経験 (国内・海外問わず/個人教授、教育実習、TA など含む)				
期間 (年数・月数)	国・機関名	対象層	時間/週	常勤・非常勤等の別
年 月～ 年 月 (年 か月)				<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> ボランティア <input type="checkbox"/> 教育実習 <input type="checkbox"/> その他 ()
年 月～ 年 月 (年 か月)				<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> ボランティア <input type="checkbox"/> 教育実習 <input type="checkbox"/> その他 ()
年 月～ 年 月 (年 か月)				<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> ボランティア <input type="checkbox"/> 教育実習 <input type="checkbox"/> その他 ()

海外渡航歴 ※滞在期間の長いものから優先的に記入		
期間 (年数・月数・日数など)	渡航先	主な目的
例： 2015 年 5 月～ (6 日間)	インドネシア	観光
年 月～ ()		
年 月～ ()		
年 月～ ()		
年 月～ ()		
年 月～ ()		
年 月～ ()		

氏名

3. 派遣先での日本語の授業や課外活動において、あなたの特技やこれまでの経験がどのように活かせると考えますか。 具体的に記述してください。

4. 派遣中の生活環境は日本と大きく異なります。 “日本語パートナーズ”として東南アジアで生活するにあたり、あなた自身はどんな点に難しさを感じるとお思いますか。

5. 今後の進路やキャリアを考える上で、“日本語パートナーズ”の参加経験をどのように活かしたいと考えていますか。
